

令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 具体的な仕事内容の講話を受け、大変参考になりました。当たり前の日々の仕事内容のようだが、中には大事にしなければならない要素がたくさん含まれていました。その中心に「子どもの主体性を大事にすること」があると強く思いました。それを活かすには放課後児童クラブとしてどう支援するか、支援員がどう感じどう対応するかがポイントになると思います。子どもたちが日々楽しみながら、自分のしたいことができる良い時間を過ごせるようにしていきたいです。
- ◆ 子どもを取り巻く環境は刻々と変わり、それに伴い、放課後児童クラブの担う役割も変化しつつあると思います。支援員自身も保護者が安心して仕事ができるよう、放課後児童クラブの質向上に努め、自己研鑽に励み、子どもたちも安心安全に過ごせるようにしなければならないと思いました。また、子どもの人権を尊重しつつ、保護者との信頼関係の構築、学校や関係機関との連携、職員間での情報共有、職場内での協力をし合う等、みんなで支援していかななくてはと感じました。
- ◆ 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるようにすることや保護者からの要望・苦情に対して迅速かつ適切に対応しなければならないこと等、大変勉強になりました。講師の先生の体験談も具体的で分かりやすく、職場内での事例検討やヒヤリハットの共有もしっかり行っていきたいと思いました。また、最後に取り組んだワークも印象的で、今後役立つ内容が盛りだくさんの講義でした。
- ◆ 放課後児童クラブにおける職員集団のあり方では、情報交換や情報共有の大切さを学びました。この研修で一番考えたことは、子ども目線の放課後児童クラブでした。いつも児童を支援する者としての目線ばかりで、子ども目線の放課後児童クラブというものを考えたことはありませんでした。子ども目線に立つことで、今まで自分に見えなかったことが見え、仕事の視野も広がるのではないかと思います。
- ◆ 子どもが安心安全に過ごすことができるよう環境を整え、受け入れ準備をし、子どもを理解して一緒に遊ぶことで信頼関係を築く必要があると思います。放課後児童クラブでの子どもの様子を保護者に伝えるときは、クレームにつながらないように、保護者が追い込まれることがないように、良いことをたくさん伝えていく必要があると思いました。友達にケガをさせたときは正確に伝え、迅速に対応するほか、職員のチームワークが大切になると思いました。